

“上流は下流を思い、下流は上流に感謝する” 上下流の交流を！

～バスツアーで木曾へ行ってきました～

私たちは木曾川のおいしい水でつながっています

11月29日(土)に、“木曾に行きましょう～大きな被害を受けている王滝村、木曾町を応援しましょう～”と、バスツアーを行いました。参加したのは、大人が23人、子どもが4人の総勢27人でした。

当日は、午前中小雨が降っていましたが、王滝村の松原スポーツ公園で、役場の村おこし推進課・大家課長から9月27日の御嶽山噴火以降の状況について話していただきました=写真。11時52



分から全員で、亡くなられた方々のご冥福をお祈りする黙祷を行い、献花しました。

王滝村にある「郷土料理ひだみ」で、瀬戸さんからどんぐり料理の説明を聞いた後、どんぐりづくしの料理に舌鼓。大人から子どもまで全員が「美味しい!」。この美味しさに「また、来たい! 家族と一緒に来たい!」などの声が上がりました。ちなみに「ひだみ」とは、地元で「どんぐり」のことだそうです。

次に、王滝村の清滝や牧尾ダムを見学し、そし

て木曾町の「みたけグルメ工房」へ行きました。そこで、組合長・西尾さんからグルメ工房の歩みや苦勞してきたことなどが語られました=写真。



「組合員は16人で全員女性、このみんなの輪が一番大切。みんなでアイデアを出し合って、(食べ物づくり)行ってきており現在120～130種類を作っています。そういう意味で、みんなが部長です」「やる気、勇気、努力でやっています」と西尾さんは、述べられました。

西尾さんたちの取り組みについて、詳しく知りたい方は『あの農産物直売所は、なぜ元気なのか』(1部700円)を読んで下さい。みんなの会で取り扱っています。

今回のバスツアーでは、王滝村村おこし推進課の皆さん、木曾広域連合地域振興課の皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございます。

御嶽山の噴火によって、木曾の町村は、大きな痛手を受けています。皆さん、木曾へ出かけましょう。上下流交流を進めていきましょう。私たちは木曾川のおいしい水で、つながっています。

*木曾に、王滝村に行きましょう! おんたけ市民休暇村、星空が輝いています。

*第6回木曾スローフード街道フェスタ:2015年2月7日(土)午後4時～6時、木曾福島会館

*木曾の特産品を購入して、木曾の人びとを応援しましょう!

☆3人のお子さんと一緒に今回のバスツアーへ参加した山田さんに感想を寄せていただきました。その一部を掲載します。山田さん、ありがとうございました☆

〈どんぐり料理に子どもたちも大喜び、今度はパパと一緒に〉

みんなの会のバスツアー、本当にありがとうございました。

水にとっても興味があります。いつも蛇口の向こう側、排水溝のその行く末を思いをはせており、水には感謝の気持ちでいっぱいです。当たり前にあるものようですが、阪神の震災の時に水道が使えない数日を送ってからそんなふうになるようになりました。

今回のバスツアーに「木曾川さん、ありがとう」「木曾のみなさま、ありがとう」という気持ちで参加しました。

王滝村で亡くなられた方への黙とう、献花をさせていただきました。

王滝村での郷土料理「ひだみ」の食事で、どんぐりを使ったお料理がいただけるとは感激。数年前にどんぐりを使って、どんぐりもちを作りました。何度も何度もあく抜きをして手をかけて、やっとできたどんぐりの粉でした。どんぐりって縄文人の食事でしたっけ？栄養のあるパワーももらえる実だと思います。どんぐり料理に子どもたちも大喜びでした。今度はパパと来ようねって言ってました。

木曾町の「みたけグルメ工房」の西尾さんのパワーと一緒に働いている組合員を大事にするところに感動しました。黒瀬かぶの漬物、とてもおいしいです。名古屋生活クラブで、ぜひ扱ってください。西尾さんたちの活動が紹介されている本を一気に読みました。女性として、地域に生きる人として尊敬します。私も地元を愛し、家族を大事にし、ご近所さんを大事にしていきたいと思います。

盛りだくさんの内容でしたので、学ぶことがたくさんありました。目で見て、体で感じて思うこと、考えることが次々にわいてきました。子どもと一緒に参加できたこと、本当にありがとうございました。

2014年「みんな・みんな楽作隊」大豆作り活動報告

～皆さん、畑にお出で下さい。待ってま～す！～



収穫した85kgの大豆の殻たたき作業

木曾川の源流の里・長野県木祖村で、約180坪の畑を借りて大豆作りを始めて今年4年目。今

年の大豆作りは、いろんな出来事があった年でした。

大豆の連作を考慮して種を新しく取り寄せて播種しましたが、その発芽が芳しくなく、急きょ地元でお世話になっている笹川さんに再度播種していただきました。また、大豆の開花の時期に雨と低温に見舞われ、生育が危ぶまれました。虫食いの被害もかなりありました。しかしながら笹川さんが、播種してくれた大豆（地元で長く栽培されていて他の農家の種）のお陰なのか、連作障害と思われる現象は、抑えられたように思われました。

日頃の笹川さんのお世話のお陰で、今年もなんとか大豆となりました。

選別前の収量は、黒豆2.9kg、あやこがね6.6kg、タチナガハ13kg、みそ豆63kgでした。

2014年の主な活動は下記の通りです。

- 5月9～10日 大豆の播種 サニーレタス、カボチャの苗の定植。
- 5月下旬 大豆の発芽が悪く、笹川さんが再度播種してくれました。
- 6月7日 大豆の苗 とうもろこし(ポップコーン)の定植。
- 6月28～29日 大豆の苗定植 笹川さんが雑草を草刈り機で刈ってくれていた。
- 7月26～27日 1日目は、木曽町の木曽駒高原にある小池糶店の味噌蔵で、味噌の天地返し作業。
2日目は大豆畑の草取り、とうもろこしのネット張り。
- 8月23日 草取り、かぼちゃとサニーレタス収穫、赤かぶの播種。
- 9月27～28日 笹川さんの稲の収穫作業を体験。大豆の枝豆、とうもろこし収穫。
- 10月25～26日 大豆収穫。
- 11月15～16日 大豆殻たたき (上の写真)。

☆標高1,100mの畑からは、正面に木曽駒ヶ岳が眺望できます。周りには白樺林があります。

畑に一度出かけませんか!? 皆さんの参加をお待ちしております。

☆「楽作隊」「楽作隊賛助会員」を募集しております。

☆問い合わせや連絡は近藤(携帯090-4150-6156)まで。

水源の里を守ろう 木曽川流域みん・みんの会

連絡先: 〒464-0075 名古屋市千種区内山3-7-11 斎藤事務所気付

TEL 052-745-1001 FAX 052-741-2588 mail:suigenosato@gmail.com

2014.11.30

中 日 新 聞 (日)

木曽川が運んだ笑顔

御嶽の麓へ 応援バスツアー



瀬戸さん(中央奥)から料理の説明を受けながら木曽の味を楽しむ「みん・みんの会」のメンバーら=29日、長野県王滝村で

御嶽山の噴火で観光客が減少している麓の長野県木曽町や王滝村を応援しようと、木曽川の上下流交流に取り組む「水源の里を守ろう 木曽川流域みん・みんの会」(事務局・名古屋市)は二十九日、両町村を訪れる日帰りバスツアーを実施した。

麓のほとんどの観光施設や飲食店は噴火後も普段通りに営業しているが、客足の戻りは鈍いまま。同会は「現状を知り、下流の人間が上流に足を運ぶことが大切」とツアーを企画。愛知、岐阜、静岡の三県から二十七人が参加した。

参加者は王滝村の献花台で犠牲者の冥福を祈った後、村内の郷土料理店「ひだみ」で昼食を取った。店主の瀬戸美恵子さん(66)は「こんなにたくさんの方が来るのは久しぶり

で、うれしい」と笑顔。村内で集めたドンケリを使ったパンや揚げ餅でもてなした。

愛知県東郷町の山口洋子さん(61)は「王滝はよその地域とは思えないので、これからも応援したい」と話した。

河崎典夫事務局長(66)は「私たちは木曽川でつながっていることを、下流域から行動で示していきたい。ツアーの参加者がリーダーになってもらえればいい」と願っていた。

「みんなの会」の注文を受けて餅を作る「グルメ工房」の組合員ら＝27日、長野県木曾町で



支援 木曾川上れ

御嶽噴火2カ月

五十七人が死亡、六人が行方不明になった御嶽山の噴火から二十七日で二カ月を迎えた。麓の長野県木曾町や王滝村では訪れる観光客らが減少し、苦境に立たされているが、木曾川でつながっていることを縁に、下流域の愛知県などで支援の輪が広がっている。

上下流交流に取り組み「水源の里を守ろう 木曾川流域みんなの会」(事務局・名古屋市)は二十九日、「現地に行つて現状を知ろう」と、木曾町と王滝村を訪ねる日帰りバスツアーを催す。会員ら約三十人が麓の献花台で噴火の犠牲者を慰霊した後、王滝村の郷土料理店で昼食を取り、地元の人たちと交流する。木曾町の農産物加工組合

愛知など下流 現地訪問や物産展で交流

長野県王滝村は27日、県外から訪れる人限定で、3000円で5000円分の買い物や支払いができる「プレミアム商品券」の発行を決めた。村内全ての宿泊施設や商店で利用できる。村の担当者は「一人でも多く、王滝に足を運んでもらいたい」と期待を寄せる。

プレミアム商品券 王滝村 県外者向けに発行

商品券は、1000円券が4枚と500円券が2枚の5000円分を1セットにして3000円で販売。発行は2000セットで購入の上限枚数は設けない。12月1日に販売を始め、同月15日から再来年の3月末まで使用できる。

1セット当たり2000円の差額は村が負担する。販売は電話で受け付け、振り込みの代金と引き換えに商品券を発送する。問い合わせは王滝村役場＝電0264(48)2001＝へ。

「みただけグルメ工房」では二十七日、同会から注文を受け、地元産のコメを使ったたよもぎ餅などを作った。組合長の西尾礼子さん(左)は「木曾に足を運んでくれるだけでもありがたい。感謝の気持ちでいっぱいです」と声を弾ませた。

同会は、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉に二〇〇八年に発足。特産品の通信販売も手掛け、売り上げの一部を基金として、水源地保全などに活用している。事務

局の河崎典夫さん(左)岐阜県可児市は「厳しい状況の上流にまなざしを向け、下流ができることをやろうと発信していきたい」と話す。

下流域の行事でも交流が広がる。愛知県東海市や静岡県湖西市の秋祭りでは、毎年参加している木曾町商

工会が今年も特産品を出張販売し、会場では多くの人が励ましの言葉とともに購入してくれたという。愛知県みよし市で今月二日にあった「産業フェスタ」といけない。大橋さんは思いを新たにしている。